歴史や関連遺産の継承と新たな価値の創造

原 浩之

〈公益財団法人倉敷天文台 〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-19-10〉



はじめに

このたび、2023年度「日本天文遺産」に認定されたことを受け、大正時代に天文や地域振興の発展に情熱と夢を抱き、倉敷天文台創設に関わった先人たちの思いとともに、喜びを共有しております。

スライディングルーフ観測室

さて、倉敷天文台を象徴する施設のひとつであ る「スライディングルーフ観測室」(現在は倉敷 科学センターに移築・寄贈)は、非常に珍しい構 造をもっている貴重な建物 (国登録有形文化財) です. 天文台のイメージというと"ドーム"を思い 浮かべる人が多いと思いますが、倉敷天文台の観 測室は【屋根は切妻、鉄板張り、室内にある歯車 のついたハンドルを回転させると屋根が東西方向 に滑り落ちる】という構造です. 創設者である原 澄治の「常に謙虚であれ」という姿勢もあったの でしょう、民衆のための天文台として、決して華 美ではなく周辺の環境にも沿うような建材(木造・ バラック小屋)を使用しています(写真1). 建設 を担当した当時の地元工務店にとっても、初めて 挑む天文観測室の建設に多くの知恵と技術を結集 させ、完成後の高揚感を創設メンバーと共に味 わったのだろう、と折に触れて感慨深く思います.

本田實氏とともに続けた天文普及活動

また、アマチュア天文家で新星、新彗星合わせて23個の発見という功績を残した本田實氏の活動、活躍に倉敷天文台が伴走できたことは、天文を民衆に広げるという理念に近づけたことにも繋がると自負しております(写真2)。本田實氏は観測や天文活動

の記録はもちろんのこと、故郷への思い、感動や苦 しみなどの心情、地域の子どもたちへの眼差しなど 多くの言葉を書き残しています。本田氏の他界後、 ノートやメモに残された言葉や詩を、当時の主事が まとめた一冊の詩集は現在絶版ですが、アマチュア 天文家の側面でもある言葉の数々を語り継ぐため、 朗読会なども倉敷天文台では行っています。



写真1 倉敷天文台の旧観望室(上)と新観望室(下)

740 天文月報 2024年12月



写真2 本田實氏(左)と倉敷天文台の創設者原澄治 (右)

本田氏のお住まいだった場所を改装したブックカフェ「星の光の澄みわたり」のネーミングは、本田氏の詩の一節を引用しました。ここには、創設時の芳名録や貴重な天文に関する様々な本や資料、例えば創設時より収蔵されていた書物なども手にとることができます(写真3)。本田氏直筆の詩などが展示されている空間では、天文に関心がない人たちも思い思いにくつろぎ、自然と、倉敷天文台の存在を感じとっていただいているようです。時には、ふと書棚から取り出した古い本を開くと、本田氏のメモを"発見"することもあります。またカフェで利用している本田氏が愛用していた文机の裏にも本田氏の貴重な走り書きが……。

2026年に100周年を迎える私たち倉敷天文台は、歴史や関連遺産を継承するための取り組みの一つとして、所蔵品の背景を深掘りするなどの探



写真3 カフェ「星の光のすみわたり」の外観(上) と多くの書物が置かれた店内の様子(下).

求活動を行っています. そして【宇宙への扉】を 民間に開いた最初の天文台として,新たな価値の 創造を目指し励んでいる道の途中です. 今後も, 公益財団法人倉敷天文台を温かく見守っていただ けますと幸いです.

第 117 巻 第 12 号 741